

海域の概要

本湾は、東部を五島灘に開いた湾で、湾奥は重要港湾に指定されている長崎港です。江戸時代の鎖国下において、湾内の出島で唯一の海外貿易が行われていました。



長崎湾

Specification

諸元

湾口幅：0.45 km

面積：10.79 km²

湾内最大水深：4.5m

湾口最大水深：4.5m

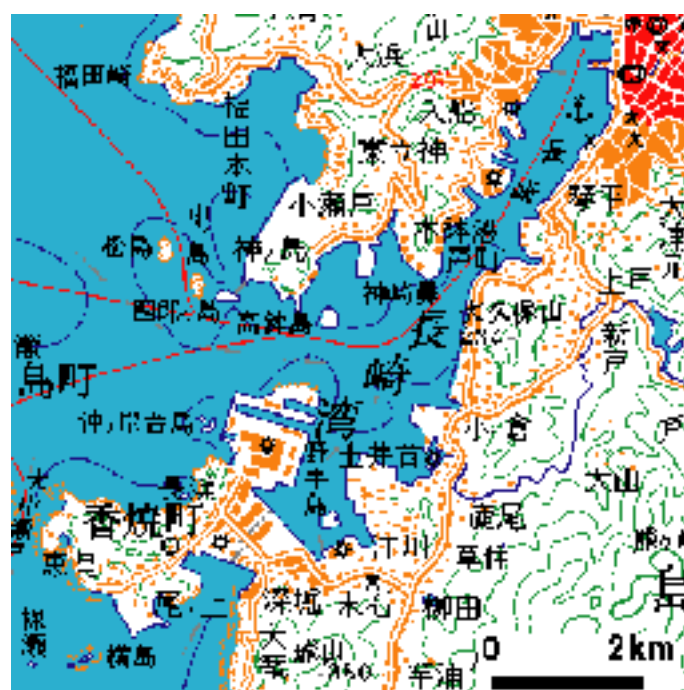
閉鎖度指標：7.30

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

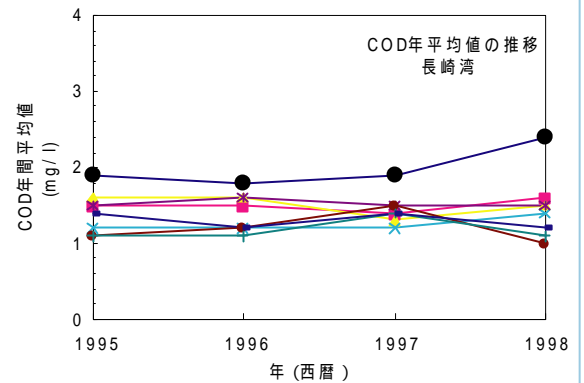
長崎県長崎港神ノ島防波堤、港口防波堤、同防波堤南端と長崎県西彼杵郡香焼町馬手ヶ浦5番の5北西端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

平成9年度にCODの環境基準は達成されましたが、pH、DO、大腸菌群数では環境基準を超えた日があり、さらなる水質改善が課題です。COD年平均値では、湾奥部では 2mg/l 前後で推移していますが、それ以外は $1.0\sim 1.6\text{mg/l}$ の範囲で推移しています。

また、富栄養化対策も課題となっており南下水処理場の高度処理等の対策が図られています。



自然

長崎湾は山に囲まれたすり鉢状の地形の底部にあたります。湾岸は平地が少なく、オランダ坂を初めとして坂が多い町を形成しています。

湾内に藻場はありませんが、湾口付近の高鉾島、野牛島周辺には干潟が分布しています。

稲佐山から見る、宝石を散りばめた1000万ドルの夜景は絶景です。



長崎の夜景

文化歴史

ポルトガル船が、それまで入港していた平戸港を追われた後、キリシタン大名であった領主・大村純忠の保護を受けて長崎港は繁栄しました。その後、徳川幕府の鎖国政策によって、外国船の入港は長崎一港に限られ、ヨーロッパ文明を受け入れる日本の唯一の貿易港としての役割を担ってきました。

早くから海外文化と接してきた長崎の人の気質は開放的、陽気なので長崎の祭りはにぎやかなものが多く行われています。中でも、300年余りも絶えることなく続いている「長崎くんち」は、日本三大祭の一つとして有名です。



長崎くんち

産業

長崎市は、「鶴の港」と称される長崎港を中心に発展した賑わいのある街です。開港以来、中国やオランダといった海外との交流によりグラバー園をはじめとする洋館や出島等、市街地に多くの遺跡が散在しており、独特の異国情緒を醸し出しています。そしてそこから生まれた伝統文化により祭りも多く一年中賑わいを見せています。

一方、被爆都市として世界恒久平和に向けて平和アピールを推進している都市でもあります。